

視察報告書

委 員 会 名	総務文教委員会					
視 察 日 時	平成26年11月18日（火）13時30分～15時25分					
視 察 先	市町村名	茨城県水戸市	人口	272,267人	面積	217.43k㎡
視 察 項 目	小中一貫教育、英語教育の取組みについて					
視察参加議員	笹栗純夫、堀田勉、谷口一成、小島忠義、三嶋栄幸、柳明夫、岡村一伸、高橋徹郎					
視察随員職員	岩田英昭					

視察概要

茨城県水戸市は県庁所在地で面積217k㎡、人口およそ27万人の特例市である。市内には小学校33校、中学校16校が存在する。

水戸市では、これまでの小中連携の取り組みと特色ある水戸らしい教育を体系化し、小中一貫教育「まごころプラン」として発展させ、平成20年度から全ての小中学校で9年間を見通し、子どもの発達と学びの連続性を重視した系統的・継続的な一貫教育を始めている。

また、英語教育では全小中学校に AET（英語指導助手）を配置し、会話を中心としたコミュニケーション能力の育成を図っており、英会話授業を国の基準より授業時間数を増やして行っている。さらに、保育所や幼稚園においても AET を活用した英語遊びのなかで英会話教育を行っている。

I 水戸市の小中一貫教育の経過と内容

水戸市では平成20年度から全ての小中学校で小中一貫教育を始めている。小中一貫教育のねらいとしては・・・

- 確かな学力の定着
- 安心できる学校生活の実現
- 豊かな人間性や社会性を育成
- 個に応じた指導や支援の充実
- 教職員の資質と指導力の向上

＊上記ねらい以外一番の成果は「教職員の意識が変わった」ことであると話していた。

水戸市で行っている一貫教育は中学校区がベースで、中学校と小学校の距離的な関係から以下の3種類に分けられる。

- 施設一体型・・・1校（4・4・1制）
- 施設隣接型・・・3校（6・3制）
- 施設連携型・・・12校（6・3制）

1. 施設一体型の特徴

施設一体型（市内では1校のみ）の学校は4・4・1制のシステムで、1年生～4年生をベーシックグレードの4年制、5年生～8年生をミドルグレードの4年制、9年生をコンピレーショングレード（集大成）の1年制としている。

現在167名の児童数で、1クラス20名弱となっている。そのため中学の教科担任の先生たちの受け持つ授業時間に余裕があり、その時間を使い小学生の教科別授業等の一部を行うことにより、きめ細かな指導が可能となっている。

なお、この学校では校舎のなかに幼稚園も入っており、幼稚園との連携も行っている。また、給食調理室は一つで、幼稚園児、小学生、中学生は同じメニューの給食を食べている。

＊施設一体型のこの学校では、小規模特認校制度より市域全体からの入学を認めている。その成果については、制度が今年度（平成26年度）からの実施のため、これからとなるとのことであった。

2. 施設隣接型、施設連携型の特徴

隣接型と連携型の15校区では6・3制のシステムを生かしながら9年間で2つに区切り「小1～小4」の「習熟と定着」と「小5～中3」の「理解と活用」とする指導を行っている。また小5からは一部教科担任制を用いている。

3. 一貫教育のためのポイント

- 中学校区の小学校の教員と中学校の教員が集まり、指導に差がでないように協議を行っている（連携している）。
- 水戸市の教員は小学校、中学校両方の免許を持っているものが多く、そのため一部教科担任制が可能となっている。
- 隣接型、連携型では中学校の教員が小学校に教えにいくような行き来というものはしていない。（ただし、乗り入れ授業は行っている）

Ⅱ 水戸市の英語教育の経過と内容

水戸市では「国際化に対応できる子どもたちの育成」を目的に掲げ以下のように取り組んでいる。

平成 元年 水戸市の全市立中学校に英語指導助手（AET：アシスタント イングリッシュ ティーチャー）を配置

平成16年 英語会話教育特区認定

平成21年 教育課程特例校指定

英会話の授業時数（教育課程特例校の指定により他の授業を減らし英会話の授業にあてることが出来ている）

小学校1、2年 30時間

小学校 3、4 年 40 時間

小学校 5、6 年 50 時間

中学校 1～3 年 英語科の他に 15～20 時間

＊幼稚園、保育園でも 30 時間程度 AET と英語に触れる（英語遊び）時間をとっている。

各学年における英会話のねらい

幼稚園・保育所 英語にふれる

小学校・低学年 英語に親しむ

中学年 英語に慣れる

高学年 英語を使う

中学校 1～3 年 コミュニケーション能力の育成

1. 小学校での英語の授業数確保の仕組み

小学校では 1・2 年生では生活の授業から、3・4 年生は総合的な学習の時間から、5・6 年生では外国語活動の授業から時間を割り、また夏休みを 3 日程度短くして英会話の授業としての時間を作っている。

＊授業であるので、評価をつけている。なお、評価は 1 2 3 や ABC ではなく、文章での評価としている。

2. 中学校での英会話の授業数確保の仕組み

中学校では総合的な学習の時間を割り英会話の時間を増やしている。

＊通常の英語の授業にプラスして年間 15～20 時間の時間を英語を聞く、話す学習の時間に当てている。

3. 英会話の授業の成果について

成果に関しては、中学校で成績が県平均 3～5 ポイントの上昇と思ったほどの向上は見られないが、外国人に対して臆することがないように感じることは大きな成果だと思うと話していた。

また、小学生においては英会話の授業が楽しい、どちらかというと楽しいをあわせて 94%にもなっている。

さらに、水戸市独自で行っている英会話力調査では英語での質問と英語での回答に関するテストで 5 問中 4 問以上の正解率がおよそ 80%となっていて、小学生の英会話の力がある程度身に付いていることが伺える。

4. 英語教育のためのポイント

□AET の確保の方法

AET は幼稚園、保育園、小学校、中学校あわせて 39 名（複数校兼務）となっており、水戸市と直接雇用の形態をとっている。AET 39 名の確保については姉妹都市を結んでいるアメリカの都市からの紹介や、茨城キリスト教大学の姉妹校からの紹介によるとのこ

とである。

□AET の技能向上のために

AET の技能向上のために指導者研修、定期的な研修、授業研究会等、研修の機会を豊富に設けている。

□保護者の理解

総合的な学習の時間等をさいて英語の授業に当てていることについて保護者からの疑問、クレーム等はあがってきていないとのことである。

＊小中一貫教育と英会話教育について特に注意すべき点

水戸市には独自の総合教育研究所があり、ここが小中一貫教育や英会話教育、その他様々な運営を行っており、そのための人材と資金（平成26年度：984,795千円の予算）が確保されている。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

小中一貫教育について

小中一貫教育を取り入れたメリットは非常に大きく、糸島市でも問題となっている中1ギャップの解消や、成績の向上、教員の意識の向上等で期待できるところがあり、糸島市においても導入について検討すべきと考える。

ただし、小中一貫教育を糸島市において実践しようと考えたと、小中両方の免許を持った教員が多数必要となることや、教職員の負担が増すことが予想されるため教職員の理解と協力が最大のポイントになるのではないかと考える。

英語教育について

世の中がグローバル化していくなかにあって、英会話力の向上は必要とされることは間違いなく、英語に苦手意識を持たないためにも保育園、幼稚園、小学校、中学校と連携し、AET が教えることには大きな意義があると考ええる。

糸島市では一部保育園等で園児と外国人の先生が触れ合っているが、小学校で一旦途切れてしまう。

平成32年からは小学校3、4年生で英語の授業がはじまる。糸島市は平成28年から3、4年生で英語授業を実施していく予定と聞くが、英語教育の充実のために水戸市などの他の先進地の取り組みを参考にしていきたいと考える。

ただし、水戸市と同じようにした場合以下の懸念がある。

- 1.AETを確保する方法。
- 2.AET雇用のための予算。
- 3.夏休みを短くする、小学校・中学校で総合学習の時間を割いて英語の授業に充てることに対し保護者の理解が得られるか。

